

「主語・目的語語順選好」は普遍的か：
主語末尾型言語からの検証
**On the Universality of
the Subject-Object Word Order Preference**

小泉 政利
Masatoshi Koizumi
東北大学
Tohoku University
Koizumi@sal.tohoku.ac.jp

話題提供：

玉岡賀津雄（名古屋大学）	言語理解の観点から
酒井弘（広島大学）	言語産出の観点から
杉崎鉦司（三重大学）	言語獲得の観点から

司会・企画・指定討論：

小泉政利（東北大学）

言語の理解、産出、獲得、のいずれの領域においても、（動詞の位置にかかわらず）主語が目的語に先行する語順（=SO 語順）が、その逆の目的語が主語に先行する語順（=OS 語順）よりも好まれる傾向（=SO 語順選好）があることが知られている。しかし、従来の文処理研究は全て日本語や英語のようにSO 語順を基本語順にもつSO 型言語を対象にしているため、SO 語順選好が個別言語の基本語順を反映したものなのか、あるいは人間のより普遍的な認知特性を反映したものなのかが分からない。そこで、本シンポジウムでは、OS 語順を基本語順にもつOS 言語を対象に言語の理解、産出、獲得の研究に取り組んでいる研究者を招き、OS 型言語における語順選好に関する最新の研究成果を披露して頂き、SO 語順選好の（非）普遍性について検討する。

謝辞 本研究は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（S）「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」（課題番号22222001、研究代表者：小泉政利）の助成を受けて行われている。